

足立区基本計画審議会  
第3回全体会 会議録

令和6年6月10日

## 足立区基本計画審議会 会議概要

会 議 名	足立区基本計画審議会 第3回全体会		
事 務 局	政策経営部 基本計画担当課		
開 催 年 月 日	令和6年6月10日（月）		
開 催 時 間	午後2時00分 ～ 午後4時00分		
開 催 場 所	足立区役所 中央館8階 特別会議室		
出 席 者	【委員】		
	宮本 みち子 会長	石阪 督規 副会長	遠藤 章 委員
	大竹 さよこ 委員	片野 和恵 委員	笠井 健 委員
	國井 幹雄 委員	山下 友美 委員	渡部 郁子 委員
	秋山 知子 委員	小柳 真太 委員	渡辺 ひであき 委員
	ぬかが 和子 委員	野沢 てつや 委員	中村 明慶 委員
	長谷川 勝美 委員	森元 隼人 委員	山下 俊樹 委員
	【事務局】		
	基本計画担当課長 伊東 貴志	基本計画担当係長 山崎 悠生	政策経営担当係長 古田 信幸
	政策経営担当係長 鈴木 力	政策経営担当係長 高田 健一	政策経営担当係長 乾 洋平
	政策経営担当係長 芳賀 優美子	政策経営担当係長 菅原 慶知	
	株式会社 地域計画連合 相羽	株式会社 地域計画連合 柳坪	株式会社 地域計画連合 青野
	株式会社 地域計画連合 青柳		
欠 席 者	加藤 和明 委員	市村 智 委員	
会 議 次 第	1 基本計画ライブミーティングの開催結果について 2 子どもの意見聴取の経過について 3 足立区の人口推計結果について 4 答申の検討 5 事務連絡		

資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【資料１】人口推計結果の概要</li> <li>・ 【資料２】人口推計報告書</li> <li>・ 【資料３】答申書(素案)</li> <li>・ 【机上配布資料】基本計画ライブミーティングでの主な意見</li> <li>・ 【机上配布資料】子どもの意見聴取の回答状況について</li> <li>・ 【机上配布資料】事前質問への回答</li> <li>・ 【机上配布資料】委員名簿</li> <li>・ 【机上配布資料】席次表</li> </ul>
そ の 他	傍聴人：有 <input checked="" type="radio"/> 無 (      人 ) その他参加者：有 <input checked="" type="radio"/> 無 (              )

## 様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

### （伊東 基本計画担当課長）

大変長らくお待たせいたしました。ただいまより足立区基本計画審議会、第3回全体会を開催します。本日はお忙しいところ、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。私は今日の司会を務めます基本計画担当課長の伊東です。どうぞよろしくお願いいたします。まず、本審議会については、条例で公開させていただいております。会議記録はホームページでも公開しておりますことをご了承願います。また、会議記録を正確に記録するため、録音もさせていただいております。広報やホームページ等に掲載するため、写真撮影をすることがございますが、ご了承願います。

それでは、まず配付資料の確認をします。資料1から3の3点です。まず、資料1が人口推計結果の概要。資料2が人口推計報告書。資料3が新たな足立区基本計画についての答申案です。その他に本日の次第。そして基本計画ライブミーティングでの主な意見。それと子どもの意見聴取の回答状況。こちらがA4の資料が2枚。A3が10枚です。そして、事前質問への回答ということで、A4が1枚。そして、その別紙として、あやセンターぐるぐるの利用実績がA4で2枚。そして基本計画審議会の委員名簿が1枚。本日の席次表が1枚。そして、意見提出用紙。以上となります。資料についてはタブレットでのご用意もできますので、ご入り用の場合は事務局職員にお申し付けください。続いて席上マイクの使い方のご案内です。ご発言いただく際は、お手元のマイクのボタンを押していただき、マイクのランプが点灯しましたら、最初に名前をおっしゃってください。会議記録作成のために必要となります。発言が終わりましたら、再度ボタンを押していただくようお願いいたします。

では、審議に入りますが、次第に入る前に事務局から報告事項がございます。本日、第3回全体会から、審議会委員の変更がございます。足立区議会から選出いただいております岡安たかし委員に代わりまして、大竹さよこ委員が

就任されます。また、大山委員に代わりまして、中村明慶教育長が委員として就任します。それぞれ一言ずつ、ご挨拶をいただきたいと思っております。

### （大竹委員）

ただいまご紹介をいただきました足立区議会議員、大竹さよこでございます。岡安たかし議員より様々な話を聞かせていただき、また議事録も読ませていただき、何とか皆様に追いつきながら、この計画にしっかりと取り組んでまいりたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

### （中村委員）

ご紹介をいただきました、4月から教育長になりました中村です。どうぞよろしくお願いいたします。今日は第3回ということで、これまでの資料は読ませていただいております。基本計画、大変、区としては根本になる重要なものですので、皆様のご意見と共に、私の方も良い計画になるように意見を申し上げたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### （伊東 基本計画担当課長）

本日、席上配付の子どもの意見聴取の結果報告。こちらは事前にお送りした次第には入っておりませんでしたが、加えさせていただいております。

それでは、ここからの進行は宮本会長にお願いいたします。

### （宮本会長）

皆様こんにちは。改めまして本審議会の会長の宮本です。よろしくお願いいたします。

## 1 基本計画ライブミーティングの開催結果について

## 2 子どもの意見聴取の経過について

### （宮本会長）

では、次第に沿って進めさせていただきます。まず、次第の1の基本計画ライブミーティングの開催結果と次第の2 子どもの意見聴取の経過について、事務局からまとめて説明をお願いいたします。

### （伊東 基本計画担当課長）

では次第の1 基本計画ライブミーティングの開催結果。次第の2 子どもの意見聴取の経過について、合わせてご報告いたします。

まず基本計画ライブミーティングでの主な意見と書かれたこちら。A3版の横の資料をご覧ください。この基本計画ライブミーティングは、審議会のご意見に加えて、区民の方々から今回の基本計画についてご意見を賜る場として、設定をさせていただきました。先月、5月26日 日曜日の午後、足立区生涯学習センター講堂でおこないました。会場には23人の区民の方。そして動画で同時配信をしておりますので、こちらでは総数で349人の方にご覧いただきました。動画を同時に最大で閲覧になった人数は69人でした。A3の横で記載したものが、その当日いただいた主な意見に加えて、その場では意見が言い切れなかった部分を、その後で書面でいただきましたので、その意見についても記載をしています。

まず左側。会場で出た意見です。大きく分けて住環境に関すること。外国人に関すること。都市整備に関すること。そして、その他ということでもまとめています。住環境については、足立区は地代が高いということで、その負担が重く区外に出ていく人が多いので、その点を何とかすべきではないかというご意見がありました。また外国人については、現在増加をしていますが、なかなか日本語を話さないということで、意思疎通が難しく、マナーの浸透に至っていないのではないかということで、日本語教育の必要性があるのではないかというご意見をいただいています。また都市整備については、インフラ整備はやはり必要なので、そのあたりは行政として最優先に進めるべきではないかというご意見。やはり人口を流出させないための施設を整備していく必要があるのではないかという意見が出ています。その他都市整備については、各論として竹ノ塚駅の高架化の話ですとか、北千住駅そのもののバリアフリー化についての要望が出されています。その他については、身体的多様性。車椅子を使った方々がより過ごしやすいようなまちを作っていく必要があるのではないかという話ですとか、子どもや

若者・高齢者・外国人・障がい者、それぞれが個性や活力を発揮できるそうした場がそれぞれに必要なのではないかという意見もありました。

右側はインターネットで配信していただきましたので、その場でご意見をネット上に書き込んでいただいたものです。大きく分けてこちらでも都市整備に関することとその他となっています。都市整備に関しては、この審議会の間でもご議論がりましたが、豊かで快適なパブリックスペースを区内の各所に整備すべきだというご意見が出ています。また、竹の塚ですとか、西新井のまちづくり。活性化が必要なのではないかというご意見が出ています。その他については、若い方がチャレンジできる環境を整備してもらいたいですとか、基本計画については区民とオープンに議論できる場は良い取組みだと思うので、次の計画でもできるだけ開かれた議論をしてほしいというご意見が出ています。

また、当日以外に出た意見が右下になります。外国人の住民に関して適正なルールづくりといった面。あとはNPOなど区民による自主的な活動が人々の幸せにつながるといったご意見。こちらは、従前、本審議会で出されていた意見であったかと思います。あとは各論として、埼玉県でできたエスカレーター安全利用に関する条例を足立区でも同様のものを制定すべきではないかというご意見。あとは企業と協力しながらのまちの開発。特につくばエクスプレスや日暮里・舎人ライナーの運賃が高いので、補助金の支援なども行っていくべきではないかという具体的な提言もいただいています。また、子どもに関しては、子ども自身の生活に関して心配や注意、自身の不満を言うことの違いを大人が理解すべきではないかというところだとか。あとは不登校に関しても、その原因となるのは周囲の圧力やコミュニケーション不足も要因にあるのではないかというご意見をいただいています。以上、ライブミーティングで出た主な意見ということで、こちらについては区の方で回答を作成中です。回答は区のホームページ上で公開する予定です。

続きまして、子どもの意見聴取の経過について

てでございます。こちらは前回の全体会でもご紹介しましたが、子どもや若者に対してもこの基本計画に関して何らかの意見をいただきたいということで、今、小中学生が1人1台タブレットを持っています。そのタブレットに質問を掲載する形で子どもたちから意見をいただいているものの中間のまとめです。こちらは4月の半ば頃から意見をいただいています。7月31日までいただく予定で、現在進行形のもので、6月5日回答分までをまとめさせていただきました。意見については別紙2でまとめています。設問は別紙1です。学年や住んでいるまち。今住んでいるまちがあなたは好きなのか。どういったまちの部分が好きなのか。そしてどういった部分が好きではないのか。あとは子どもに優しいまちとはどんなものだと思うかですか、あなたがリーダーだったら、このまちをどのようにしていきますかとか、あとは大人に伝えたいことはありますかという設問を入れています。

結果をまとめたものがA4縦書きのカラーのものになります。回答者の属性ですが、小学校1年生が43件と一番多くなっています。ただ、回答をよく見ると、これはもしかして保護者がお答えになったかもしれないような答えも散見されます。この回答は原文のままですので、保護者が回答したのではないかというものは分かるかと思います。回答数が多かったのは1年生に次いで小学校6年生、3年生と続いています。

そして、まちの印象について。足立区が好きかを伺っていますが、とても好き、と、好き、回答で80%以上となっていて、総じて子どもたちは足立区のことを好きだと捉えています。

では、具体的にどのようなところが好きかと聞きますと、便が良いということでくくられるような回答が上位に来ています。近くに買い物をするお店がたくさんあって良いとか、公園が多いとか、子どもでするのでそういったところのご意見が多いです。

また、一方で嫌いなところの回答では、ごみや落書きがあってまちが汚いということが上位の回答になっています。私ども区としては、

ビューティフル・ウィンドウズ運動ということで、まちの美化は進めてきているつもりでしたが、子ども目線で見るとまだまだこのあたりは厳しい結果になっています。

続いて6番、まちの将来像。どういったまちになってもらいたいですかというところで回答をいただいたところ、最も多かったのが悪い人がいなくて交通事故が少ないまちということで、安心と活力のうち、安心の部分子どもは上位としているということですね。その次が地震や災害に強いまち。そしてごみが少なくて環境にやさしいまちということで、このあたりが子どもたちにとっても大事なポイントだと捉えているようです。

そして、子どもにとって優しいまちはどのようなところかということですが、こちらは中学生以上に聞いています。最も多かったのは、周りの人が子どもを助けてくれるまち。そして子どもが自分らしくいられるまちというところが上位二つとなっています。

自由意見が別紙2になります。子ども・若者らしい意見が並んでいます。冒頭で大人に対して言いたいことがありますかという設問がありましたが、子どもがどのようなことを今の大人たちに望んでいるのかが現れてくるところかと思えます。大人も子どもも同じだと思いますという意見が散見されます。大人も頑張っているのは分かるけれども、子どもも頑張っていることを認めてもらいたいとか、子どもの意見をきちんと取り入れた場所にしてもらいたいといったご意見。子どもだからということで駄目と言わずに、意見を尊重してもらいたいというのがちらほら入っています。やはり、子どもたちの意識の中でも、自分たちもいろいろな意見を述べて、いろいろなことに関わりを持ちたいという考えを持っている人が一定数いるのではないかとこのところが分かりました。

私たちもこれら全てを施策に反映するのは難しいですが、お子さんたちがせっかくこうやって出している意見ですので、今後の施策に何らかの形で参考にしたいと思っています。

#### (宮本会長)

ありがとうございました。今二つの議題につ

いて資料のご説明をいただきました。先日のライブミーティングですが、会長と副会長と2人もそこに登壇させていただいたのですが、会場は30人ということで人数は限定していたのですが、非常に挙手が多くてですね。とても全員に発言していただけない状態になりました。30人に限定して良かったと思うぐらいで、本当はもっと意見が言いたいという方がたくさんおられた感じがいたしました。そんなことでございますが、皆様の方で感想、お気づきになった点などお出しいただければと思います。

#### (秋山委員)

ライブミーティング、大変お疲れ様でした。私もYouTubeで拝見していて、発言されている方のお顔を見たり、コメントなどもスクリーンショットを撮って見ていました。私が感じたのは、発言している方は話し慣れている方が多かったかなと。NPOの代表の方が見えていたという話も聞きましたし。自分で足を運んで話すのはハードルが一つ高いのですが、今回こういう取組みをしたのが2回目ということだったので、これを足がかりに意見を聞く機会をもっと増やして行って、自分の意見を話すことに慣れた区民が増えるといいなと思いました。

#### (森元委員)

2月から公募委員をしている22歳の森元です。どうぞよろしくお願いいたします。2点あります。1点目がライブミーティングについてですが、この意見ってすごくありがたい上に、能動的な意見であることには留意しないといけないと思っています。話し慣れている方とか、積極的にそこに参加しようという意思のある方の意見なので、一般的な区民代表の意見として見ると違うのかなと思う部分があります。これは子どもの意見にもつながるのですが、もっと一般的な区民からすくい上げる手段を別で用意していただけるとよろしいのではないかと思います。

2点目が子どもの意見聴取についてですが、こちらはどんな様式で意見聴取をされていたのかを伺いたくてですね。例えば学校に意見聴取をしてみてくださいみたいなアンケートボックスがあったのか、それとも各生徒に配布して、家で

回答してもらったのか、どんな方式だったのか伺えたらと思います。

#### (伊東 基本計画担当課長)

アンケートのやり方についてお答えします。アンケート自体は、お子さんたちが今1人1台タブレットを持っています。その中に、聞かせて、みんなの意見、という意見を投稿できるボックスを用意していて、そこに私たちがアンケートを入れて答えてもらうという仕組みです。周知については、もちろん広報・SNSでもやらせていただいたのですが、基本はタブレットに直接区から、こういう意見を聞かせてもらいたいのでお答えくださいというので、そのタブレットに直接情報を流して、ご覧をいただいて、興味がある方に回答してもらっています。

あと前半の意見が能動的な方が多かったのではないかというお話。これはおっしゃる通りだと思います。ここで出た意見が区民全体の総意でもないと思っています。私たちも意見というのは幅広くいただきたいのですが、いわゆる一般的な意見。埋もれてしまうような意見をどうやってすくい取るかというようなところというのは、非常に試行錯誤していても難しい部分があります。述べていただけない方に無理矢理述べていただくのも難しいので、工夫を今後もしていかないとはいけないと思います。例えば若い方々に対しては、こちらからアウトリーチしていろいろ聞くという方法も採っていかないとはいけないかなとは思っています。

#### (森元委員)

子どもの意見聴取について意見があります。小学校って地域活動みたいな形で、自分の地域の文化を学んだり、討論の活動があると思うのですが、そういうものにつなげながら、もっと区への意見をドーンと言うよりは、もうちょっとフラットにまちについてみたいなこと、もうちょっと柔らかく、アンケートチックに思わせないような工夫があると回答率が上がるのではないかと思います。228件ある回答を拝見したのですが、ふざけているでもないですが、遊びになっている部分の一つあるのかなと思えたので、小学校の学校活動に関連させながら、上手く結び付けられるといいのかなと思いました。

た。

**(宮本会長)**

子ども・若者の意見聴取はこれからより一層重要な方針になっていきますので、どうやって聞くのか。どうすれば広がるかというのは、これからますます検討する必要があると思います。

**(ぬかが委員)**

私もライブミーティングの方はオンラインで見せていただいて、すごく楽しかったです。ご指摘のように、最初は公募をかけて参加したのかなと思いきや、発言者の方々皆さんお招きいただいてありがとうございます、という言葉から始まるので、あれって思いながらも。でも、私はすごく自由闊達な意見で、非常に面白くて。例えば、ここには載っていないのですが、足立区の良さをどうアピールするかのところで、チューリップ饅頭でしたっけ。そういうプランとか、面白い知恵が出されていたと思うんです。私ね、これからは大事だと思ったのは、今後のテーマに関わるけれども、やりたいことを実現する達成感ということ、みんなが体験するという意味では、実はその意見の中には採用するもの、しないものがあるかもしれないけれども、極力このライブミーティングの声が、こういうふうに生きたんですよとか。子どもたちのアンケートも、まだそんなに実るのは難しいかもしれないけど、このアンケートがあったからこういうふうな基本計画になったのですよというフィードバック。これをせっかく声を聞いたからやっていく。その積み重ねがこれからのテーマになっていく。ウェルビーイングを高めていく。足立区はちゃんと声を聞いてくれるというふうになるのではないかというのを感じました。

**(秋山委員)**

子どもアンケートについてですが、私は小学校3年生の子どもがいるので、どういう形で来るのかを観察していたのですが、学校のメールなどの配信システムで通知が来て、自分の意思でサイトを開けて記入するのですが。タブレットは1人1台なのですが、学校の中では授業以外では使ってはいけないとしている教室もあつ

たりして、なかなかそういう機会を子どもが作るのが難しかったりするんですね。なので、これはスタートとしてはいい取組みなので、学校の授業の中でそういうコーナーとか、道徳の授業に入れてもらおうとかして、これを足がかりに実際にちゃんと吸い上げていける仕組みを考えていただきたいなと思いました。

あとは、ぬかが委員がおっしゃった通り、意見はフィードバックして初めて、ああ、自分の意見を言って良かった、となると思いますし、その積み重ねが区民が自分の意見を言おうという意欲につながるとと思いますので、ぜひ続けていただきたいと思います。

あと、福祉まると相談課でしたか。それを作るに当たって、昨年度、近藤福祉管理課長が5か所でタウンミーティングみたいな形で、地域の方のお話を聞くのをされていて、今年度も10か所でなさると聞いたのですが。それを例えば中村教育長がいろいろな小学校に行って、直接子どもから話を聞くというのをやってみるとか、アナログなことをやってみるというのも一ついいと私は思っています。すごくいいスタートなので、ここをきっかけにどんどんお互いのシナジーが生まれるようなことを、ぜひお願いしたいと思います。

**(宮本会長)**

石阪副会長も当日出ておられましたのでお願いします。

**(石阪副会長)**

ライブミーティングに参加して良かったと思ったのは、我々がいないと行政の方と区民がいて、区民が何かを言って、行政が、すいません。これこれこうなんです、っていう説明で終わっていたと思います。私たちはちょっと中立的な立場で、私ならこう思うとか、こういう考え方もあるのだということが言えたことでミーティングになったと思うんですね。つまり、要望合戦、要望に対する回答ではなく、討論になったところに意義があったと思っています。第三者的立場での参加というので、区民や私たちのような外の人間が入ることで、すごく活発な討論ができたという感想を持ちました。ですので、ミーティングのやり方ですが、単に行政の



方がズラッと並んで、区民が問い掛けるのではなくて、討論になるような仕組みをする上では、今回のケースは私は参加できて良かったです。逆に区民の皆さんの中にも、もっとこうの方がいいよとか、私からもっと言いたいこともあったし、逆に行政の立場でももっとこう答えればということもありました。逆に素晴らしい建設的な意見もありました。これは間に入ってすごく感じるものが多かったミーティングだったと思っています。

子どもの意見聴取に関してですが、これやっぱりかなり親が回答していますよね。本当に子どもの意見なのか、子どもという形で親が意見を言っているのか、この辺りが今のシステムだと判別が難しいので。純粋に子どもの意見という形で出てくると面白いなと思いました。

#### （伊東 基本計画担当課長）

子どもの意見を聞く仕組みですが、この仕組み自体が今年の4月から区として始めています、その一つ目が基本計画についてなんですね。なので、私たちの発信の仕方が良くなかった部分ももちろんあると思いますし、受け取る方々がどう答えたらいいのか。本当に子どもが答えるのか、親が答えるべきなのかというのも、まだまだ区別が付かないまま始まったのも実際あると思います。なので、保護者がお答えになったところもあると思います。そこはもう少し分かりやすく、こちらからお伝えする必要もあると思います。あとは委員からご意見のあったフィードバックですね。すぐにはその意見がこうなったということとはできないものももちろんあると思いますが、実現していくきっかけがこの意見なのだとするところは、そのフィードバックは私たちも努力が必要だと思います。

#### （野沢委員）

基本計画ライブミーティングは本当に良い取り組みだと思います。ここに書いてある主な意見には一つの傾向があると思います。それは外国人が増えることへの不安が色濃く出ているのかなと思います。新たな足立区基本計画の答申案がありますが、外国人に対する記載については、多様性を認めるとか、そういった記載が結構あるのですが、外国人が増えることに対する

漠然とした不安については、あまり触れられていないですね。こうして基本計画ライブミーティングの主な意見として、外国人が増えることに対する不安を訴えている方がいらっしゃるという現実は勉強になると思います。

もう一つ、子どもたちへの意見聴取ですね。これは良い取り組みだと思います。皆さん大人が書いている意見が多いとか、幼い意見が多いとおっしゃっていて、その通りだとは思いますが、一つ傾向があるなと思っています。公園のトイレをきれいにしてほしい。まちの将来像に公園がきれいなまちとか、トイレがきれいなまちとか、そういった一定の傾向も見られますね。私は決算特別委員会でお話をした時に、公園のトイレが汚いという話をしたところ、清掃は行き届いていると。だから汚いという概念は難しいという話をいただいたのですが、子どもたちも清掃は行き届いているかもしれないけど、トイレは汚い。そういう意見がありますので、こういった意見も一つの大きな塊として捉えていただけたらと思います。子どもの意見は継続して聴取していただくのは良いことだと思います。

#### （宮本会長）

ああいう集まりを持ってみますと、区民の方にはいろいろと言いたいこともあるし、こういうことができるんじゃないか、ということもたくさんあるということが感じられました。これからああいう形でもいいですし、もっと細かなワークショップ的なものですね。それを各所でいろいろなテーマでワークショップを繰り返すと、そのこと自体が区に対する誇りとか満足感とか、そういったものを作っていく基になるのではないかと思います。今回の基本計画の中でも、重要なポイントとして石阪副会長が報告されたところの安心な社会とか、多様な人・団体がまちの活力を生み出すとか、協創といったあたりのところとかですね。私が申し上げたところの人々のつながり。それから大人も子供も孤独に陥らない環境が整った足立区とか、こういうものを作っていく内実は、区民の徹底した交流・交歓にあるのではないかと、そんな感じがしました。

### 3 足立区の人口推計結果について

(宮本会長)

それでは次第3、足立区の人口推計結果について、事務局から説明をお願いします。

(伊東 基本計画担当課長)

資料1と2をご覧ください。足立区の人口推計ですね。基本計画の策定にあたって毎回行っているものです。今回、直近の結果が今年の2月の末にまとまりましたので報告させていただきます。今回の人口推計の方法ですが、大きく人口が変動する要素を踏まえていますが、大きく三つ。出生率・移動率・外国人。これらの要素を高位・中位・低位と区分けをして今回推計しました。詳しくは資料2ですが、要素としてまとめています。

まず区の総人口が今後どうなっていくのかという推計です。濃い青と水色と黄緑色になっていますが、上から順に高位推計・中位推計・低位推計となります。今回は2070年までの人口を推計していますが、高位推計では約65万3,000人。中位推計では約57万9,000人。低位推計では約49万2,000人となっています。この総人口は、日本人と外国人の人口を足し合わせたものになります。それぞれのピークについては記載の通り、高位推計では令和19年、2037年。中位推計では令和18年。低位推計では令和7年がピークを迎えることとなっています。

3ページをご覧ください。それぞれの日本人と外国人がどうなるのかの内訳になります。グラフの角度が真逆です。日本人は今後下がり続けるという推計結果で、中位推計で言えば2070年には48万人となります。それぞれのピークは実は令和5年であるという推計結果となりました。一方、外国人はコロナ禍で一旦外国人の流入は止まったのですが、コロナが落ち着きを見せたところで、また転入の状況になってきています。それらが一定程度続くというような推計をしています。中位推計で行くと2070年では約9万8,900人。高位推計では10万人を超えるという推計をしています。

4ページをご覧ください。これは年齢3区

分。いわゆる生産年齢人口と言われる15歳から64歳と、年少人口と言われる0歳から15歳。そして高齢者と言われる65歳以上のグラフになっています。年少人口については、2023年の時点で7万4,635人から、2070年に掛けて減り続けるという推計です。一方、65歳以上については、割合が増え続けるということで、区の高齢化率は上がっていく形になります。生産年齢人口と年少人口で支えていく高齢者人口が増えるという推計結果になっています。大まかにこういう人口の変動をしていくだろうという推計をしています。もちろん、今回のコロナのような要因ですとか、あとは途中で大きな災害が起きるというようなことが仮にあった場合には、特に外国人の人口にはそこで動きがあります。そこまでは今後何が起きるかが読み切れないので、そういう不確定要素は今回廃して推計しています。

そして最後です。5ページをご覧ください。こちらは今の審議会の中で、基本計画のことをご審議いただいています。今後の基本計画とはまた別に、国から地域ビジョン、昔は人口ビジョンと言ったのですが、地域ビジョンというもののや、あとは地方版総合戦略。あとは国土強靱化地域計画というのも策定していくことが求められていますので、基本計画の策定と一体的に策定準備を進めているところです。

この基本計画が完成した時には、その基本計画の内容の後に、この国土強靱化計画ですとか、地域ビジョンの内容も加わった冊子になる予定です。

(宮本会長)

ただいまの報告について、質問・ご意見はありますか。

(笠井委員)

外国人という言葉が出てきますが、大体どういった国の方かというのは分かっているのでしょうか。

(伊東 基本計画担当課長)

最も多いのは中国です。次が韓国、次がインド、次がベトナム・ネパールという順番です。おそらくこれ令和元年度から変わっていませんので、概ねこの上位は当面はこのような状態が

続くと思います。中国人は約1万5,000人、韓国人が約6,800人ですので、中国人が頭一つ多くいらっしゃるという状況です。これは今後も続くと思います。

(宮本会長)

この件はここまでとしたいと思います。

#### 4 答申の検討

(宮本会長)

それでは次にまいります。次第4、答申に関する意見交換に入ります。これまでの審議などを踏まえて、石阪副会長と私とで答申の素案を作成しました。まず私から答申の素案についてご説明します。

資料3をご覧ください。答申については、区を取り巻く状況と、計画として備えるべき内容。これが一つ目。二つ目は全てに共通する理念。そして3番目に分野別の視点の三つの構成でまとめさせていただきました。まず1ページ目は答申の宣言と区を取り巻く状況についてです。区を取り巻く状況に関しては、人口減少や外国人の増加、自然災害や社会情勢の急激な変化などに加えて、審議会でもご意見があった地域コミュニティの希薄化や、インフラの問題、中年単身者などにも触れさせていただきました。

次に2ページ目からですが、計画として備えるべき内容を記載しています。今回は基本計画という最上位の計画の策定となりますので、それぞれの分野ごとの計画では描けない分野や領域を横断した内容とすることや、バックキャスティングやEBPMなど効果的・効率的な行政運営に必要な考え方。そして、区民意見を反映していくことなど、自治体の計画として必要な視点を記述しました。

5ページ目からは、審議会の議論の中で各分野に共通していた意見をまとめさせていただき、基本方針として整理しました。まず区政が目指す方向については、区民の皆様の活動意欲がマグマだまりのような状態にあることを捉え、審議会では次期計画のテーマとして掲げた、やってみたい、を推し進めることによる持続可能なまちの実現を掲げさせていただきました。

こうしたまちが実現することで、活力が生まれるだけではなく、社会的孤立の恐れのある方々にとっても、様々な居場所が生まれる可能性もあり、まちが個性豊かなサードプレイスとなっていくという視点を盛り込みました。計画の理念に関しては、基本構想に掲げた協創に加え、ウェルビーイングの視点や、子ども・若者の意見反映、多様性の尊重など、全ての施策に関わる内容を記述しています。また災害対策や環境対策や、日常生活の中の取り組みや、様々な領域の取り組みから達成されていくものとして、あえて計画の理念に位置付けさせていただきました。

次に8ページからですが、各分野別の方針として、分科会を中心に各分野の施策に対してご意見をいただいたものをベースにまとめています。まず基本構想の視点「ひと」に関する分野です。子ども・学校を対象としたものとしては、子どもの学力と個性の双方を伸ばしていくことや、特色ある学校づくり、教職員の負担軽減などについて記述をしております。また、子育て支援に関しては、ポピュレーションアプローチの視点を取り入れることや、スポーツやイベントによる地域づくり、人権尊重などについても記述させていただいています。

次に基本構想の視点「暮らし」に関する分野に関しては、様々な分野が入っています。特殊詐欺や消費者被害、治安対策による環境づくり。そして、行政と区民との協創による環境対策。障がい者への合理的配慮の視点。ウィークタイ、フレイル予防などの様々な取り組みによって、区民の暮らしを支えていく必要があります。

次に基本構想の視点「まち」に関する分野では、地域防災力の強化、障がい者などの災害時の要支援者に関する内容や交通環境。パブリックスペースを意識した都市整備。誰もが創業にチャレンジできる環境づくり。フリーランスのデジタル技術者の活用などを記述しております。

最後に基本構想の視点「行財政」に関する分野です。11ページ。この分野では、職員のやりがいやモチベーションの向上など、区の人事

に関する内容や、効果的な情報発信とプラスイメージの創出、人口減少を見据えて公共施設の複合化や適正配置が必要といった行政運営に関することを記述しました。

それでは、ただいまの大まかなご説明を踏まえて、答申のセクションごとに内容を確認していきたいと思います。意見交換の時間をある程度取っていますので、ご意見をいただきたいと思います。

**(ぬかが委員)**

その前に一つ質問してもいいですか。議論の進め方というか、今後の答申までのスケジュールというか。要は今日議論して、答申を今日するという事ではないのでしょうか。どういう段取りで何回委員会をやって、答申になるのかをお聞かせください。それによって私たち議員などは、今日意見を出さなくても別の機会があるならば、他の方ということもあると思うので、その辺の段取りを教えてください。

**(伊東 基本計画担当課長)**

今日答申をいただくという段取りではないです。答申をいただくのは9月の全体会の予定です。今日、答申案のご審議をいただいて、修正すべきところがあるのかどうかを本日ご審議をいただきたいというところです。

**(宮本会長)**

それを踏まえてご意見をいただきたいと思います。では2ページから4ページですが、計画策定にあたって、についていかがでしょうか。

**(秋山委員)**

まず誰でも読んで意味が分かる内容にしたいと思っていて、レジリエンスであるとか、ウェルビーイングという言葉については、注釈を入れることをお願いしたいと思います。

**(宮本会長)**

それは入れた方がいいと思います。

**(ぬかが委員)**

足立区を取り巻く状況のところというのは、多分審議会ではあまり議論をしていない気がするのですが。そんな中でももっともだということが書かれているのですが。物価高騰のところだけ、ロシアによるウクライナ侵攻など、世界情勢に起因した物価高騰とあるのですが、物価

高騰そのものはウクライナだけが原因ではないと言われているので、ここは削除した方がいいのではないかと思います。

それから、計画策定にあたって必要な視点ですが、急に行政の通達みたいな文章になっていて、疑問に思ったのですが。ここについては、若干意見があるのですが、後で文章で意見を出したいと思っています。ただ、先ほど秋山さんが言われたように、読んで分かりやすい文章をお願いしたいなと思いました。エビデンスに基づいた政策立案というところで、他もそうですが、計画策定にあたって必要な視点でも、ちょっと決め付け調なんですね。他のタッチと違うというか。ちょっとそれが気になっています。それ以降、つまり答申の基本方針とか、分野別のところと温度が違うというか。急に行政チックになっていると思っているんです。その上で、事業のスクラップ&ビルドを進めることというのは、単純には書いてほしくないなと私は思いました。エの(イ)のところですね。

**(宮本会長)**

ありがとうございます。まず一つはあまりにも行政文書的にならないようにということで、ここに関してはこれから工夫をして書き直しをしたいと思います。

物価高騰に関しては、背景はウクライナだけではないということで、このあたりは慎重に書くということですが、ぬかが委員のご指摘だと、あまり書かないで物価高騰と言ってしまった方がいいのではないかとのご意見ですね。

**(石阪副会長)**

この答申は、基本的に我々審議会が区長に対してお渡しするものですね。だからこれがこのまま別に区民の目に触れるということではありませんので、表記としてはむしろ我々が強く示すことは、逆に区長に対して強く言うということかと思っています。それから、言うべきことはきちんとするという視点が必要ですが、ちょっときついところもあるかもしれません。あるいは、ソフトにこういう点だけを考慮いただいて、ぜひ作ってくださいと言われれば、比較的ソフトにということもありますので、その点あくまでも我々審議会が区長に対しての答申とい

うことをご考慮いただければと思います。

**(宮本会長)**

それは重要なことですね。この文書は何のためにあるのかという話ですね。そのことを改めて踏まえて、修正すべきことは修正ということで進めたいと思います。

**(片野委員)**

私もぬかが委員に賛成のところがあります。まずエの（イ）のところですね。この基本計画では、やりたいことが実現できるまち。皆さんやりましょうようと、前向きなことを動かそうとしているのに、資源や資産に限りあることを認識し、最適化されたって書かれてしまうと、効率を考えてやらないと、非効率なものは駄目なのかなって思われてしまうので、ここはもうちょっと柔軟な言い方に変えていただけると良いのではないかなと。言っていることに矛盾がある気がします。

**(宮本会長)**

これは、ひと・行財政分科会に関わりますがどうでしょうか。

**(石阪副会長)**

今のは、エ（イ）の4ページの一番上ですが。効率化であったり、スクラップ&ビルドという表現ですね。比較的そういったものを優先すべきだという考え方に対して、審議会の委員の皆さんには疑義があるということですが。この辺は書き方の問題になると思いますが。我々の方で担当部局と調整したいと思います。これ結構強い表現なのですが。

**(秋山委員)**

私は2人の意見とは逆で、スクラップ&ビルドのことは強い口調でした方がいいと思っています。というのも、資料1の人口統計結果の概要の4ページのところを見まして、これは区の2070年前の予想人口、中位だった場合の推移で、これは年齢別構成がどういうふうに変化していくかというのを見たところなのですが。総人口としては減っていくのですが、これ高齢者を65歳以上としたら、プラス7.7万人。労働生産人口はマイナス15.8万人。幼年人口はマイナス3万人という感じで、高齢の方についてはむしろ増える結果となっています。

区の保有施設って例えば小学校なんかで今、長寿命化計画を立てているので、新しい建物は基本的に100年もつような設計で作っていきますから、例えば今工事したということは、100年後の未来まで責任を持たなければいけないわけです。そういうことを考えなければいけない初めの時に、かなり未来は深刻だよということをしっかり認識しておかないと、いろいろなことを統合しなければいけない時に、ちょっとその覚悟があると私は思っているんですね。

なので、この基本計画の策定に当たっての2ページの（1）の5行目。人口構造に大きな変化が起きているという表現が、これでは実際に何が起きるかが分かりづらいので、2070年までの予想の結果なんかも、実際にこうなる見立てでははっきりしているのでショックがあるかもしれませんが、はっきり書いていって、それを前提にこれは考えてあるというのを示さなければいけないのではないかと思います。

**(宮本会長)**

今のに関係してご意見はありますか。

**(森元委員)**

E B P Mを推進するというのはとても必要なことだと思うのですが、エピソードベースの政策が間違っているのかというところではないかと思っています。そういうところからすくい上げた意見が、結局多くの人を救うことにならなくても、少しの人を救うとしても、行政がやるべきことはあると思っています。その点で僕も片野委員に賛同する部分として、限りがあることは認識して、最適化された都市経営を進めるという文言は、例えば若者がやりたいことをやれるということを中心に展開すると言っているものの中に、それが本当に最適化されてしまった場合に、それが今後ある意味投資として若者にやらせてみるという計画と最適化というのは、相反する部分があると思うので。そういう点でE B P Mを推進することは一つの方策として正しいとしても、それだけではないという点で、ここの見直しは必要かなと思いました。

**(宮本会長)**

そうしますと、今のご意見を整理すると、一つは人口構造が非常に深刻な変化があると。そ

れを前提にした足立区を考えなければいけないって、これは否定できないことなので、それは押さえると。そして資源や資産に限りがあることもこれは間違いないと。これは押さえないといけない。次のところは最適化に関してですが、いろいろな制約条件の中で、しかし実現しなければならない足立区としてのニーズとか、区民の希望とか、そういうものを最適化する上では、いくつかの基準があると。一つではないということですね。それをどうやって組み合わせながら、そこでの最適化を考えていくことになると思います。ちょっとこのイに関しては誤解のないように丁寧に書いていただければいいかなということかと思えます。その後で具体的に出てくることというのは、単に資源・資産の最適化だけではなくて、人口構造だけでもなくて、何を区としては目標にしていくのかがいろいろ書いてありますので、そう簡単に断ち切ることはできないということですね。ということで、ちょっと丁寧に見直しをしたいと思えます。

#### （石阪副会長）

スクラップ&ビルドという表現がきついなと。個人的には再編とか再構築とか、検証・見直しとかですね。そういう形の方が確かになじむのではないかと。かなりドライな感じがしてしまうので。せっかく足立区のいいものを出して、また新しいものをとということではなくて、もう1回見直すという表現の方がいいのではないかと思います。

#### （宮本会長）

では、そのあたりの再編・再構築・再検討あたりのところの用語をうまく混ぜて、誤解のないような形で記述し直したいと思えます。

#### （渡部委員）

オの（ア）ですが、今回のライブミーティングを踏まえて、ここに子ども・若者の意見を聴取する機会をとあと思うのですが、ここにもし可能であれば、マイノリティとして、障がい者や外国人という言葉も入れていただくと思います。というのは、ここに私は障団連の代表で来ていますが、障がい者の意見を聞いていただける機会はほぼないぐらいなんです。

あると言えばあるのですが、やっぱりそこに出るまでの、そこで意見を言うまでの過程がものすごく長いですし、要するにないに等しいんです。なので、今回のライブミーティングのような機会は、障がい者にも与えられることはものすごく力になりますし、すごくありがたいなと感じたので、ここに障がい者の言葉が入っていると、この先の私たちの力になるというのが1点。

そして、今人口動態を見た限りで、外国人の人数が大きくパーセンテージが増えていくところを見ると、やはり外国人の方。今は外国人に対する恐れというか、分からないことへのいろいろな思いが何となくアンケートから読み取れるので、そうではなくて、一緒に区民としていい区にしていく。だから意見をぜひ聞かせて欲しいという思いをここに、外国人と載せることで表現していただけるといいなと思いました。

#### （宮本会長）

ありがとうございます。これは反対される方はいらっしやらないと思えますし、これまでも渡部委員から障がい者のことはいろいろとご発言はあって、非常に重要なことだと思いますし。外国人からしても、この間の集まりの時にも、区民の方から外国人が多くなって、困っている困りごとについて、かなり具体的にお話があったのですが。やはりこれ、日本人とですね、いろいろな外国人の方との間でまったくコミュニケーションが今はない状態で。誤解も生じているし、言葉も通じない中で、こちらが伝えるべきことが全然伝わっていないところで起こっていることがいろいろあるなという感じが強くしましたので、ちょっとこのあたりのことは、障がい者・外国人、その他とかもいろいろありますね。そのあたりも含めて書き込むことにしたいと思います。

では先にまいります。5ページから7ページの基本方針についてはいかがですか。

#### （ぬかが委員）

私、この基本方針を読ませていただいた時に、ちょっと先ほど意見を申し上げた前段とは違って、ここには審議会ですら今まで議論をしてき

たことが、しっかりと基本方針に書かれている  
と思ひまして、そういう意味でとてもいいと私  
は思ひました。

**(秋山委員)**

私は逆に自分はひと・行財政分科会の方に入  
っていたので、子育てとかについていっぱい話  
していましたが、逆にくらし・まちについても  
意見はいっぱいあるのですが、全然言えていな  
くて。今から言えるなら言いたいと思ひていま  
すし。逆の分科会の方もそうではないかと思ひ  
ていて、そこはどうなんだろうという思ひがあ  
ります。

**(宮本会長)**

まだ時間がありますので、簡潔に言っていた  
だいて、あとはこちらで検討しますので言っ  
ただければと思ひます。

**(秋山委員)**

私からはくらし・まちのカテゴリーは分から  
ないのですが、簡潔に言いますと、足立区全体  
でタワマン規制とかを掛けていった方がいいの  
ではないかと考えています。今ワンルーム賃貸  
というのが非常に増えてきています。結構投資  
とか財テクの一つとして進められていることも  
あって。千住などは大きな敷地のマンション  
が、ファミリーではなくて、全部ワンルームだ  
ったりということもあって、既にまちの中心部  
ではそういうワンルームで、平成の初期ぐらい  
にできたものがあふれているわけで。そういつ  
た規制をするべきじゃないかということです  
ね。

あとは施設に関しては、私の方で今日、急遽  
資料を印刷してお配りしたものがあるので、ご  
覧いただきたいのですが。令和3年3月に教育  
委員会の学校改築担当部学校改築担当課で作ら  
れた学校施設の個別計画の中から抜粋していま  
す。まず1ページ目の下のところをご覧いただ  
くと、区が持っている施設の6割が学校関係の  
施設になっていて、これが施設管理の費用負担  
とかにすごい大きな割合を占めています。その  
2ページ目のところを見ていただくと、今私た  
ちが話している基本計画の下にこの公共施設等  
総合管理計画があって、更に下にそれぞれのカ  
テゴリーごとに計画を立てているという関係性

がよく分かる図があります。

先ほど私がお話の中でも使わせていただいた  
人口動態の割合。高齢者は8万人増えるけれど  
も、子どもは3万人減って、労働人口も16万  
人減るという将来が今から50年後には待つて  
いる。小学校は一度建て直したら基本的に10  
0年使うという計画で作っていくとなった時  
に、今の小学校のあり方というのを何も議論し  
ないで、ただその場に新しい建物を作っちゃう  
というのだと、数十年後には小学校を持て余す  
状態になると思ひうんです。その中でお年寄り  
は増える。私は足立区の中で6割を占めている学  
校という施設をもっと複合的な施設にしていく  
ことを、課を横断して考え始めないといけない  
時期だと思ひています。そういうことを考えた  
時に、7ページにある縦割りの図なんかを見ると  
学校施設と一般施設というのは完全に縦割り  
になっちゃっていて、相まみえない状態になっ  
ていて、小学校の中に学童を入れるというのでも  
、その昔担当課が違うというのでもめたとい  
うことは大山前委員からも聞いたところです。

例えば、私は千住城東小学校のPTAをやっ  
ています。千住の東の地域。島みたいになって  
いる地域なので、すごくコミュニティとしては  
分かりやすい地域なのですが。昔図書館があっ  
たのがなくされてしまったとか、小学校も古い  
ので、卒業生が気軽に遊びにこられないとか。  
小学校を核にもっといろいろなことをやれるの  
ではないかと思ひうのですが。施設が整っていな  
いがためにできなかったりというのがあるの  
で。小学校をすごく大切なインフラとして、区  
でもっと有効活用していくことを始める、その  
最初の年にぜひしていきたいという意見を持っ  
ています。

**(宮本会長)**

ありがとうございます。今のご発言は、一言  
で言うには非常に大きな問題ですが、人口動態  
を見据えた公共施設の再設計みたいな話ですよ  
ね。

**(秋山委員)**

そうです。それに小学校が活用できないかな  
と思ひています。

**(宮本会長)**

小学校活用だけでなく、おそらく公共施設は全てそういう観点が必要なのですが。これは基本計画なので、細かいところまで盛り込むものではないのですね。これだけの非常にドラスティックな人口動態の変化があるので、それを見越した公共施設とか、もっと言えばまちづくりとかですね。そういうところまでする必要があるというようなことを、ちょっとどこかに盛り込めばいいかもしれませんね。これは検討させていただければと思います。

**(石阪副会長)**

11ページの一番最後、ウの（ア）ですね。比較的これに近いかなと。つまり、公共施設の複合化、兼用等の検討及び適正配置を推進する。広い意味では、この中にも小学校であったり、そういうものが入ってくるので。単に学校としてではなくて、多目的な利用であったり、適正な配置を考えながら、新しいものを作っていく。こういう視点を、この文章に加える形で表記をさせていただく形でよろしいでしょうか。

**(秋山委員)**

はい。

**(宮本会長)**

そうですね。ちゃんとありますね。もう一度この文章をチェックしてみたいと思います。その他にいかがでしょうか。

**(野沢委員)**

これを読んで一つ足りないなと思うところがあって、人口動態もそうなのですが、生産年齢が15歳から64歳までになっているのですが、今高齢者は若くて、元気があって、すごく有能な方が多いと思うんです。今回の計画を見る限りでは、高齢者の社会的孤立がどうだとか、居場所を形成するとか、ちょっと正直失礼じゃないかと思うぐらいな感じなんですね。私自身、市町村での高齢福祉課に所属していて、介護認定調査員で何千人もの高齢者の方と接してきたのですが、やはり皆さん非常に若々しくて、元気で有能で、まだまだ働けるし、活躍の機会はいっぱいあると思うんですよ。だから、もう少し高齢者の方々に対して、前向きな指針を加えていただければと思います。

**(宮本会長)**

今、野沢委員がおっしゃることは、5ページ、6ページあたりのどこかに入れた方がいいということでしょうか。

**(野沢委員)**

おっしゃる通りです。

**(宮本会長)**

国の方針は、高齢者を70歳以上に変えるというのが間もなく実現するはずですよ。そういう意味では、入れることは必要だと思います。

**(森元委員)**

2点、日本語の書き方についてなのですが、（1）の区政が目指すべき方向の下から3行目。やってみたい思いのカッコなのですが。他の文章でやってみたいのみにカッコを付けて強調しているのに対して、ここは思いまで入っているの、やってみたいでカッコ綴じの方がやってみたいの強調になると思います。

2点目。右側のオの（ア）ですが、子ども・若者は、と書いてあるのに対して、大人と同様にというのは、若者の範囲がどのような扱いなのか微妙だと思う部分があります。20代、30代も若者と言えば若者です。大人と同様にというのは、ちょっと日本語的に正しくない気がしますので、ご検討いただけたらと思います。

**(宮本会長)**

ありがとうございます。大人と同様にというのは、これ本当に子ども・若者・大人というのがとても難しくてですね。こども基本法も、それから、こども大綱とかもですね、こども家庭庁関係ではひらがなを使っていて、法律もバラバラなんですね。整理しがたい状態にあるのですが、大人と同様にという言い方は、いかにもという感じになるので、これはちょっと検討したいと思います。

**(片野委員)**

これ順番なのですが、（1）基本構想の視点「ひと」というところの順番なのですが、これから先に向けてアナウンスしていくものだと思うのですが。この中で人権尊重エリアって4番目に来ているんですね。8ページ、9ページですね。基本計画の下でアイウエとなっている、



エが人権尊重と相互理解の促進となっているんですけど。概念上すごく大切な人権は一番上に来るべきものじゃないかと私は思うのですが。特にこれから先に向けて発表するものとしたら、人権の位置をもう少し挙げていただきたいなというのが私の感想です。

**(宮本会長)**

反対のご意見がなければ、これで検討をさせていただきます。今、各分野の方に行ってしまっていますので、じゃあ7ページまで基本方針ですけど、今5、6、7をやっていましたが、いろいろな大事な意見をいただきましたが、一応ここまででよろしいでしょうか。

次が8ページ。各分野別方針ということで、8ページのひとについてですね。今一つ大事なお意見をいただいています。その他、お気づきの点があればお願いします。もし何かあれば、後でお出しをいただくということで、次に行きたいと思います。

9ページの(2)ですね。暮らしに関してです。ここはいかがでしょうか。

**(石阪副会長)**

これ皆さんから大体出た意見をまず基本的にはまとめています。ですので、もうちょっとこういった視点を入れた方がいいというものであったり、あとは表記に問題があるとか、このあたりを中心に発言をいただけると助かります。

**(山下俊樹委員)**

非常にいいと思うのですが、一つイの(イ)ですか。日本語が多様な保育サービスや学童保育士が必要な時に利用することができるなど、子育てをしても様々なことにチャレンジでき、自分の可能性を広げられる環境づくりを進めると。これは描き回しを上手にした方がいいのではないかと思います。

あとは先ほども意見がありましたが、これ人権尊重と相互理解っていうタイトルにするからおかしなことになるわけであって。これは子ども、それから子育て、スポーツと来ているわけですから、外国人とか、そういうふうに具体的な言い方をしないから違和感が生じているのではないかと感じます。

**(宮本会長)**

8ページのイの(イ)。この日本語の表記に工夫が必要ではないかというお話ですね。

**(石阪副会長)**

今のご発言では、後半に自分の可能性を広げられる環境づくりの例として、この二つがあまり適切ではないと。もうちょっと何かあるのではないかということですね。

**(山下委員)**

ちょっと日本語の違和感があるのですが。

**(宮本会長)**

それから、その次の9ページのエについてですが。ちょっとここだけ大きすぎる形になっているということですね。

**(山下委員)**

タイトルがですね。

**(渡部委員)**

基本構想の視点、ひとの(1)、アとイは子育てに関する事。ウがスポーツに関する事とすると、それに当てはまらない人の視点というのがエになるのかと考えた時に、エはちょっと広すぎて、ちょっとどうなのかというのは、私も何となく思いました。今、基本構想の視点「まち」のエの部分に、まちの中で人材、地域活用ということで、世代を問わず創業にチャレンジできるというアイウエがあるのですが、これがもしかしたら基本構想の視点のひとに入ってもいいのかなと感じました。創業にチャレンジできというのはなく、世代を問わずチャレンジできる人を増やしていくというようなニュアンスなのであれば、基本構想の視点「ひと」の一番上に来て、誰もがそういうチャレンジするような人たちにならましようという基本構想というニュアンスは何となく理解できると感じたので、「まち」にあってもいいのですが、「ひと」にあってもいいかなと感じました。

**(宮本会長)**

ありがとうございます。

**(野沢委員)**

一通り見させていただいた中で、意外に女性に関するものが。性別問わずとかはいろいろありますが、やはり女性がもう少し活躍できるとか、女性が暮らしやすいとか、女性に関するもう少し前向きな表記があってもいいのではない

かと思うのですがいかがでしょうか。

**(宮本会長)**

ただいまのことを含めてご意見をいただければと思います。

**(片野委員)**

大変ありがたい意見だと思います。先ほどの人権尊重と相互理解の促進というところに、人種や性別などに関する無意識の思い込みというのがしっかり書かれていて、要するに性的格差をなくすということを意味しているものがあるので、これを頭に持っていただくことで、強くアピールできるのではないかと思います。人権という言葉をやはりどこかにいれていくことも大切なことだと思います。SDGsシティとなっていますし、そう考えたらここに含まれるのではないかなと。あえて女性とは書かなくても、多分これが一般化していくことで、女性・男性という分業がなくなったらいいなという思いも込めまして、そういう形で出していただけたらと思います。

**(小柳委員)**

この文章の読み方として、書かれていることの順番に序列はないと私は読んでいたのですが、そこでこれを頭に持ってくることによって、強いメッセージが出るというような考え方でこの文章を編集すると、今後この文章の読み方としては、全てのセクションにおいて順番に意味がありますということになってしまうので、それはそれでこの文章全体の構造をゆがめることになるのではないかと思います。危惧しています。

**(石阪副会長)**

基本的に順番に意味はないです。表に出るものでもありませんので。まず表記がされているのかということと、それからあとは誤字などの表現の問題ですね。そのあたりを見ていただきたいと思います。ただ、区長に説明する時には、上にあるとインパクトがあるということはあるかもしれませんが。これはあくまでも答申ですから、表にこの順番で出ることを想定しているわけではなくて、我々が審議会としてまとめたものという扱いでよろしいでしょうか。

**(伊東 基本計画担当課長)**

副会長がおっしゃる通りです。これがそのまま対外的に出るものではないので、あまり順番は関係ないと思います。ただ、今の基本計画の体系と同じ順番にはなっています。

**(石阪副会長)**

必ずしもこだわるものではないということですね。ただ、今のところはそういう順番で並べであるということですね。

**(森元委員)**

ひと・行財政の方で確認したいのですが、

(3) 基本構想の下のまちのエ。持続可能な地域経済の発展と地域人材の活用とある中で、イの中では若年者がスムーズに就労に移行して云々とある中で、地域人材が果たして地場産業従事者なのか、それとも担い手としての社員なのかという点で、地域人材の活用というのと、若年層がスムーズに就労に移行してというのが引かかる部分があります。例えば区内在住者の区内での就業を促進するみたいなニュアンスなのか、ここがフワッと概念すぎると思うのですが。地域人材の言語解釈のところで、トップに地域人材の活用と書いてあるので、若年層がスムーズに就労に移行してというのも、ある意味足立区への就労を支援してみたいな形のニュアンスなのか。それともそういうわけではなく、ただ単に若者がちゃんと就業できるようにみたいなアプローチなのかという解釈がどういうものなのかうかがいたと思います。

**(宮本会長)**

確かにご指摘のことは、(イ)の若年者がスムーズに就労に移行してということと、エのタイトルがちょっと違ってきますね。失礼しました。私も気付きませんでした。(イ)の若年者がスムーズに移行してというのは、地域人材としてではなくて、足立区に住んだり働いたりしている若年者の意向を支援をするということのことですね。地域人材として足立区のためにといった話ではなく、若者個人の人生の移行をスムーズに果たせるためにということです。ですので、このエの持続可能な地域経済の発展と、地域人材というのと、少しマッチしないことになりますね。

**(森元委員)**

先ほどの渡部委員のご指摘通り、「まち」から「ひと」の方にセクションを移動すると、結構入るのかなという気がします。

**(宮本会長)**

そうですね。ご指摘の通りです。私が流れをつかめずに失礼しました。エの（イ）ですね。これは小柳委員がおっしゃる通り、「ひと」の方に移せば、人を大切に人を育てる足立区という事で収まるのではないかと思います。

**(森元委員)**

これはご検討をいただければと思いますが、区内の就労を支援する方向をここに混ぜてもいいのかなと思っていました。地域人材の活用という意味で、区に住んで、区で働くという形が支援できる体制を足立区で推進するというのも、この地域人材の活用と持続可能な地域経済の発展という意味では、整合性があるかなと思っていますので、可能ならばここに、足立区に住む若年者がスムーズに足立区内での就労みたいな形でのラインもここに混ぜ込んでいただくのもありかなと思ったので意見をさせていただきました。

**(宮本会長)**

なにゆえ足立区の中で就職しなければいけないのかの理由はどうでしょうか。

**(森元委員)**

その点例えば区役所で働くというような、そういう流れとして、地域人材の活用という点が、僕は足立区内での産業の担い手だったり、地場産業への従事という点が、区内での循環という言い方を意味しているのかなと思っています。この地域人材という言葉自体がですね。これも定義が様々だとは思いますが、その点、検討していただく程度でよろしいのですが、ラインとして持続可能な地域経済の発展と地域人材の活用って、地域人材の活用が結構引っかかっています。この点、地域人材の活用と表記をするならば、区内での産業就労支援みたいな形がイの中に混ぜ込めるのではないかなという意見です。

**(宮本会長)**

ちょっと検討させていただきますが。例えば（エ）のフリーランスのデジタル技術者など、

フリーランスと付けたのは、小柳委員の発言と合致しているのかどうか。フリーランスでなくてもいいのですね。

**(小柳委員)**

そうですね。フリーランスにまったく限定する必要はなくて、最近は副業などもかなり活発におこなわれていて、フリーランスかどうかという話に拘らず。あとはデジタルにも拘らずということにもなるかもしれません。様々なスキルを持った人がもうちょっといろいろな活躍と言った方がいいかもしれませんが、様々なスキルを持った人の活躍の場を増やすという、もうちょっとふんわりした話になるかもしれませんが、そうしてもいいのかもしれない。

**(宮本会長)**

それで行きますと、（エ）の意味していることの一つは、足立区に住んでいようがいまいが、足立区の中には多様な有能・有用な人々がいます。その人たちが足立区において活躍できるような状況を作るというようなことで、そのことと森元委員の言われているところの、区に住んで区のために働くというようなことが、ここももう少し緩やかに、でも重要なことだと思うのですが。

**(森元委員)**

地域人材の定義が曖昧なのが問題であって。僕の私的として、地域人材と書くならば、地域人材の定義として一つ区の中でという意味だと思ったので発言した次第で、地域人材という言葉は区外から来るなら地域人材という言葉の必要性はあまりないわけで。

**(宮本会長)**

地域を取れば問題がなくなりますね。地域という言葉を取って、人材だけにすれば。

**(森元委員)**

現状の地域人材の定義というのは、区側としてはどういう解釈をしているか伺いたいです。

**(石阪副会長)**

答申案は、区側と言うよりは我々が議論することなのですが、地域で活躍できる人材ということなので。極端な言い方をすると、足立区に住んで渋谷区のために頑張る人も地域人材かもしれません。足立区のためオンリーで働くとい

う意味ではなくて、地域社会に対して様々な参加ができるような、そういう人材という意味であると私は思っていたのですが、足立区に限った人では必ずしもないのではないかと思います。

#### (小柳委員)

私も足立区に住みながら渋谷で働いているので、確かにそういう側面はあって。ただ、住んでもいるので、渋谷で働いている時とは違った側面で足立区に寄与したいと思うことがあります。そういったリソースを遊ばせておくのももったいないし、何か方向性を付けてやれば、何かができるのではないかという期待感がここに書き込まれているというニュアンスです。

#### (宮本会長)

エで小柳委員がずっと言われていたことは、これまでみたいに足立区は寝る場所。そして渋谷に働きに行く。今まではこれで良かったのですが、もっと柔軟に人がいろいろなところで働いたり、活躍できるという時代に入っているということで、足立区においてもその人材がここで活躍できるようにと。あるいは、その人々がネットワークを組みながら、足立区にも何らかの意味で有益なことができるようにと、そういうことなのでしょう。だから今までよく使われてきた地域人材と言うよりも、もう少し柔軟で広い意味で使いたいなということがあったのですが。

#### (遠藤委員)

私どもは足立区で経営している者の集まりですが、バックキャスティングとかフォアキャスティングの問題というのはすごく複雑で面倒臭いことです。というのは、バックキャスティングのような計画を立てるのは、10年、20年で計画を立てているんですね。フォアキャスティングというのは2～3年の中期の計画を立てて、それを遂行していくのですが。今商工会議所では、4月に計画を立てたものが既に廃止になって、新しい計画を立てないととてもやれなくなってきました。それはいろいろな課題が次々と出てくるからなんです。今こういった問題があるかというのと、とにかく人材がすごく不足していて、廃業する会社が今6万社にもなっ

ているんですよ。倒産が1万社。しかもそれが右肩上がりで増えているんですね。あと2～3年はそういう状況が続くだろうと言われていています。

足立区の場合も零細企業がすごく多くて、人手が欲しいという会社が相当たくさんあるので、中期で出す場合は地域の人材という言葉がないとすごく苦しくなってくるんですね。だからそういったことで、中期・長期・短期という計画を出すのは、文章にするのがすごく難しい問題・課題を背負っていると思います。そこら辺は慎重に出さないといけなような問題になってきますね。

今、物価高騰とか、人材不足とか、六つも七つも課題があるのですが、それを見直しながらかの計画を立てているんですが、なかなか上手く行かなくて。じゃあそれで成果が出るかというと、成果もなかなか出ない。そうすると、金持ちの区は金持ちの区でいいのですが、貧乏な区は貧乏の方にだんだんと二重構造的になっているところがあって、それをどうにかしたいというのが、我々の意見と言えは意見です。

#### (宮本会長)

今のご発言で、地域人材の問題は非常に重要なので、それで考えると10ページのエの持続可能な地域経済の発展と、地域人材の活用のところがすっぱり抜けている感じがしてきましたが。ここにまず地域人材の深刻さに対する対策が必要みたいなことを入れる必要があるということですか。

#### (遠藤委員)

そうですね。入れてほしいという希望が私としてはあります。

#### (宮本会長)

ただ、深刻なそこをどうするのかに関しては、そう簡単に答えは出ない。でも、とにかくここへ入れていくということは一つありますね。

#### (片野委員)

私自身がひと・行財政分科会にいたのでよく分からないところがあって、「まち」のところ、イの地域社会に参加できるって書いてありますよね。この地域社会が何ということで、確

かくらしとまちの方で、町会・自治会が書いてあったと思ったんです。それで地域社会に参加ができるって、これ要するに町会とか地域に参加することなのかなと。町会・自治会の記載がここにもうないので、それがここになったのかなと、ひと・行財政分科会の私としてはそう思ったのですが。

**(宮本会長)**

今おっしゃっている地域社会というのは、具体的にはどこのことを指していますか。

**(片野委員)**

町会・自治会とか、地域活動を行うコミュニティのことです。コミュニティのことはどこかに書いてあるのかと思うのですが。

**(石阪副会長)**

つまりこれは町会・自治会だけではないですね。地域社会ですから、広い意味でのコミュニティ活動ということで言うと、NPOや市民活動も含めて、町会・自治会活動も含めて、就労した方がそういった地域の活動にも参画できるようにという、ニュアンスとしてはそういう意味だと思います。

**(宮本会長)**

エというのは持続可能な地域経済の発展なのですから、ちょっと地域社会全体の発展というのは一致はしていませんよね。だから地域経済の発展なので、やはり地域人材、労働力としての深刻な不足という話がここでは出てくるのですが。もう一方では地域社会を維持するための人材が不足しているというか、不足していないけど参加しないかもしれないですし。その問題というのはもう一つあるわけですよね。そのあたりが抜けていますでしょうかね。

**(森元委員)**

今のご指摘で、若年層が地域社会に参画できる仕組みを構築するというなら、この文章のニュアンスとしてある上で、もう一つ誰でも地域社会に参画できる仕組みは必要だと思うので、これとは別個で、誰もが地域社会に参画できるというニュアンスの文章を、別の項、エじゃなくてもいいと思うのですが、作れば今の話は解決ではないかと思います。

**(宮本会長)**

そうですね。地域社会、あるいはコミュニティという言い方をすることもあります。コミュニティの意思がなかなかスムーズに行われない状況にあると。これはだいたいこの会議の中でも出されたことですが。それが抜けているのでしょうかね。

**(石阪副会長)**

抽象的な表現ですが、9ページのウの（ウ）ですね。密なつながりによるストロングタイ。これで地域づくりに生かしていく。新たな絆づくりみたいなものですね。つながりを大事にしていって、これ広い意味では、こういうのも全部、年齢に関わらず地域活動に参加してほしいという意味も含まれています。

**(野沢委員)**

10ページのイ、新たな交通の推進と安全な道路環境の整備ですが、ここはコミュニティバスはるかぜの廃止等による交通空白地域の解消のためとあるのですが。それと同時に高齢者とか障がい者とか、子育て中の方とか、交通空白地域だけではなくて、交通弱者のためというニュアンスの文言も入れていただけるとありがたいと思います。

**(ぬかが委員)**

基本方針の方に含まれていたオの子ども・若者と一緒にまちを作っていくというエッセンス。子ども基本法の理念で言われているような部分が、よくよく見ると各分野方針では消えているなど。例えば1のひとのアとイのところは、どちらかという子どもに対して環境を整えようよというニュアンスになっているので、ぜひこの基本方針で言っている、子ども・若者と一緒にまちを作っていくというエッセンスの具体化を、分野別のところで少し入れた方がいいのではないかというのが1点です。

それから2点目で、先ほどお話がある人材不足とかね、人口推計の関係で言うと、本当に衝撃的な、これから10人に1人以上が外国人になるというのが足立の将来の姿なわけですね。そういう中で、NHKで3か月でマスターする世界史という中で、ローマが栄えてギリシアが滅びた理由が、ギリシアはまさに市民権を与えないで排除する。ローマはどの国の出身であつ

ても市民にして活力を作っていたと。同じで、足立区においても増えていく外国人の方々や、いろいろな方々をみんなで活力にしていると。この観点がないと多分いろいろな分野に影響が出るだろうと思うと、先ほど議論になっている1のエの人権尊重の部分というのが、実は人権尊重もそうなのですが、私からすると人権と多様性の尊重なのかなと。それで相互理解を促進して、本当に理解が広がる将来像というか、お互いにルールを守れるし、理解が広がって共感できるような将来像を描くというのが、足立区の発展につながると思うので、その辺を書いてもらえるといいなというのが2点目です。

それから3点目は行財政のところ、これも先ほどの基本方針の前のところで議論したスクラップ&ビルドの表現を、再構築とかっていう表現にした方が確かにいいなとも思います。要望として、やはりその辺の表現を、統廃合とか適正配置とか。適正配置という言葉は悪い言葉ではないけれども、残念ながら行政において適正配置というのは、潰していくことに使われてきた経緯があるので、そういう誤解は招きたくないで、その辺の表現はぜひ先生方に工夫していただきたいと思います。

#### (宮本会長)

そろそろ時間ですが、とても良い意見がたくさん出て、これをうまく盛り込めば、より一層いいものになる感じがします。

#### (秋山委員)

私、ひとのアとかイとかウとかの大きなタイトルを読んでいて、あとは全体の文章を読んでいて思ったのですが、ぬかが委員、野沢委員、渡部委員、森元委員がおっしゃっていたことと重複しますが、今までの会議の中で若者とか障がいのある方とか、性的マイノリティとか、独身単身者とか、結構今まで文章に出てこなかった人たちの主語になるような人たちが結構いっぱい出ていたのに、この文章からはそういう人たちの名詞が全部なくなっていて。人権尊重の言葉の陰に隠れて透明な存在になっているように私には見えて。なので、今まで出てきた人たちの名詞がちゃんと見えるような文章にしてほ

しいと思います。障がい者・LGBTQ・独身単身者・女性・外国人、あとは足立区に住んではいないけど関係している方。住んではいても町内会に入っていない方というのが、このひと・行財政分科会の会議の中では話題に出てきた名詞なので、そこを見える化してほしいと思いました。

#### (宮本会長)

ありがとうございます。それは大事なことです。先日もフォーラムの中では、ライブミーティングでは、そのあたりのことはかなり明確に打ち出したつもりなんです。ところが今日それで考えて、皆様のご意見を聞いていると、この答申にちょっとその精神が充分に入っていない。文章的に入っていないことに気がしました。ライブミーティングの後で、参加したある方から、メールを私たち2人いただいたのですが。その中で感じたことが、足立区というのは、東京23区の中では非常に評価の低い区であると。それを何とかしようと思って頑張ってきたけれども、遅々と進まない。その方は中心になってNPOをやっている方で、一生懸命やっているんだけど、もっと何とかならないのかと。とにかくスピードが遅すぎるというご意見と。それから、足立区は今おっしゃったような、いわゆるマイノリティのいろいろな方々が、言ってみると非常に多い区だと。そのことが区の外から見ると、非常に評価を低めている。それに関してもいろいろ書かれているのですが、私がそれを読んで感じたのは、足立区というのはその人たちを大切にす多様な区であるということですね。もっと打ち出す必要があり、その方も言っていたのですが、23区の中で最も福祉が発達して、人を大切にし、どういう人でも足立区に行けば人間らしく住めるという打ち出しができるはずではないかとおっしゃっていて。それは本当にまさに足立区が掲げるべきスローガンとして妥当なものではないかと思ったのですが。そのあたりのことが、ちょっとこの文章では充分に表現されていないということを、私自身の反省として感じたところです。

#### (石阪副会長)

あとはやはり皆さんからのご意見をまとめると、子育てや若者についての意見が多かったので、我々答申を出す側として見ると、そこに皆さん強い思いがあるのかなと。だからといって障がい者や外国人を排除するものでは全くないのですが。ただ、ボリューム感として圧倒的にそれが多かったということですね。だからこの中に書き込む時に、どうしてもその部分が多くなってしまった。そういうところがあります。ですので、実際に出てくる計画はまたちょっと別ですので、これはあくまでも皆さんのご意見のボリュームがどこにあったのかということできあがったということをご理解をいただいて。あとはこれを我々の方で取りまとめないといけませんので、いただいたご意見を改めて我々の方で一旦持ち帰って、修正を掛けることになりますね。

実は今後のスケジュールもございますので、なかなか皆さんにこれでいいですかと、もう1回戻してということはなかなかできません。今日いただいたものをある程度我々の方でまとめさせていただいて、それをどうしましょうか、事務局。一旦メールで流す形にしますか。それとももう一度開いてと言うよりは、むしろこれで皆様からご意見をいただいて、我々にご一任いただくという形にさせていただけるとありがたいです。

#### **(伊東 基本計画担当課長)**

会長・副会長でまとめていただいたものを私たちがお預かりして、皆さんに流してご意見をいただく。再度意見があれば戻してということで、仲介役というか、取りまとめはさせていただきます。

#### **(宮本会長)**

一つ、今日どこまでまとまるかということは分かっていない中で考えたことは、最後にこの答申を区長に手渡す時に、改めて委員と区長との間でこれまでの私たちの作業を踏まえて、いろいろと区長に言いたいことを申し上げると。そういう時間を取りたいと思った次第です。ですので、その1回の会合で前半で今日いただいた意見で文章を直したものを、最終的に皆様にこれでいいかという承認をいただき、それで後

半で区長と意見交換をするというようなことにするのかどうかですね。そんなことでいかがでしょうか。

#### **(山下俊樹委員)**

これは会長・副会長に一任して、作っていただいて、それを我々に見せていただいて、それで完成でよろしいと思います。やっても個別の話にどんどん深みにはまるだけだと思いますので、それで構わないと思います。

#### **(森元委員)**

今後のスケジュールとしては、9月に答申を出す方向で、7月31日の全体会で最後のもみをして、9月に出すのでしょうか。

#### **(石阪副会長)**

それを今ご相談しているイメージですね。7月の末をやるかやらないかという議論です。9月に出すことは出すのですが。

#### **(山下俊樹委員)**

7月31日は承認の場でいいと思います。

#### **(石阪副会長)**

もっと議論を深めたいということであれば、その場を作ることも可能ですが。

#### **(宮本会長)**

後の表現振りについては、大勢でやるよりは、皆様から意見を集めて、それを徹底的に私たちと事務局で整理して、文章を作っていくという方が効率的であると思います。ですので、まだ2か月ありますので、その間に私たちの方で作ったものを皆さんにお配りして、その都度意見を挙げていただくと。それを何度かやれば、大体いい文章ができるのではないかと思います。感じがしますが。よろしいでしょうか。それでは、そんなことで6月から7月、8月に答申を完成させるということで、9月に最終的にもう一度集まり、区長の前で提言を出すことにしたいと思います。ありがとうございました。あとは事務局にお返しします。

## **5 事務連絡**

#### **(伊東 基本計画担当課長)**

本日も熱心な議論をありがとうございました。次回については、7月はやらないということではよろしいですか。そうすると、次回は区長

へ答申をいただくということで。その前に何回か委員の皆様方に答申の案をご覧いただいて、ブラッシュアップしていくという形を取らせていただければと思います。

次回は9月の頭ですね。答申日になります。その日程については、事務局から委員の皆様にご案内をさせていただきたいと思います。私どもから皆様方にご覧いただく答申案と共に日程をご提示したいと思います。当日の資料については、従前と同じようにこちらから紙またはデータでお送りしますので、ご覧いただきたいと思います。それでは、本日の審議は以上となります。お忘れ物のないようにお帰りください。また、お車でお越しの委員については、駐車券のご用意がございますのでお声掛けください。本日はどうもありがとうございました。